

〔学 会〕

東京女子医科大学々会 第119回例会

日 時 昭和38年4月26日(金)午後2時より
場 所 東京女子医科大学本部講堂

1. 小児尿の酸素分圧と「オスモクリアランス」に関する研究

(第1報) 小児尿の氷点降下度と比重との関係

(小児科, 第一生理) 山崎香栄子

演者は尿の酸素分圧と「オスモクリアランス」の関係を知る目的をもって、まず尿の滲透圧を知ろうとしてその氷点降下度と比重との関係を検討した。このために新に尿の氷点降下度を記録する方法を適用し、その測定値と落下法による比重値との関係について述べた。

2. 口腔侵襲の末梢脈波に及ぼす影響について

(第1報) 歯牙電気刺激時の脈波の変化について

(口腔外科, 第一生理) 依田 雄弘

演者は口腔外科的小手術時の末梢脈波に与える影響の消長を観察しようとし、人を対象として10~50CPSの矩形波をもって歯牙を電気刺激した場合の脈波曲線を、多用途監視記録装置を用いて記録し、その振幅、持続時間および波形を目標として、その変化を検討したので報告した。

3. いわゆる非定型抗酸菌の細菌学的ならびに臨床的研究(その2)

(三神内科)

三神 美和. 小山 千代. ○竹内富美子

現在、内外で重要テーマの一つである非定型抗酸菌についての報告は、本邦では外国のそれに比し、一般に少ないとされており、またその細菌学的性状も外国の報告にある如き Photochromogen は少ないといわれている。われわれは本院における患者の主として喀痰につき広く結核菌検査を行ない、定型的結核菌と考えられない菌株を分離し得たので、いわゆる非定型抗酸菌の分布状態および分離菌とその臨床症状との関係を知らんとした。われわれが分離し得た菌種には定型的結核菌の性状の一部を欠く第I群の4菌株と、いわゆる非定型抗酸菌の Scotochromogen 群に属すると思われる第II群の9菌株のものがあつた。これらの細菌学的方面については、すでに本例会で発表した。今回明らかにし得たこれらの分布

率は、諸家の発表のように低かつた。またその臨床方面については、これら13菌株の排菌者12名中、11名は現症および既往歴に結核性疾患を認め、残り1名には結核様疾患を認めなかつた。結核性疾患を認めた11名は咯血、血痰、咳嗽、喀痰、発熱、呼吸困難、息切れ、盗汗、リンパ節腫脹、体重減少、食欲不振等の症状があり、多くは喀痰検査で結核菌陽性を示し、また大部分の者は胸部レ線像上、学会I型、II型、学研B型、F型を示し、外科的治療を施行した者を含め12名中、10名に空洞を認めた。また殆んどの者がSM, PAS, INAHに高度の耐性を有していた。以上のように、いわゆる非定型抗酸菌の排菌者に中等症、重症の臨床症状を認めた。

4. 1, 2 催眠薬の胎児に及ぼす影響について

(薬理) ○藤井 徳子. 小山 良修

催眠薬の胎児に及ぼす影響を検討する実験の一端として行なつたラットにおける結果を報告する。

2-methyl-3-0-tolyl-quinazolone (ハイミナル; 以下Hyと略)を10, 50, 100mg/kg, N-phthaloylglutamimide (インミン; Isと略)を100, 300, 1000mg/kg, Wistar-king A 系ラットに妊娠第1日目から1日1回, CMC懸濁液として経口投与し、分娩前日までつづけた。

Is は1g/kgの大量でも投与30分後から30分~1時間軽度の鎮静状態を示すだけであつた。妊娠期間、胎児数も全く正常であつた。

Hy は50mg/kgで投与15分後から軽い鎮静状態が1~2時間持続し、100mg/kgでは翌日もやや運動性がにぶい。また、妊娠初期に胎児吸収、分娩後の哺育率の不良をみとめた。

仔ラットの体重、体長、尾長は、Is, Hyとも変化をみとめず、アリザリン・レット染色の骨格標本においても骨格数、形態に異常をみとめなかつた。

なお、今回の実験は、最近、定められた動物試験の規程によるものでなく、単なるテストとして行なつたものである。したがつて、決定的結論を出すことはできなかつた(手技の可能性に対する実験である)。